

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習 I	2単位	90時間
目的：1. 看護実践におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解を深める。 2. 日々の看護実践をもとに看護過程を用いて振り返り、必要とされている看護を明確にする。		

実習目標	実習内容	備考
1. コミュニケーション技術を用いて、成人・老年期にある対象や医療チームメンバーと円滑な関係を築くことができる。	1) 成人期または老年期にある対象と円滑なコミュニケーションをとる。 (1) コミュニケーション技術を使って対話する。 (2) 人生の先輩として尊重した態度で接し、良い関係性を構築する。 (3) 対象の心配事や感情に焦点をあてる。 2) 医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 (1) 相手のメッセージを正しく受け取る。 (2) 自己の考えを明確にし、相手に伝える。 (3) 自己と相手、双方を尊重した自己表現をする。	レポート④
2. 病院で療養している対象の生活を捉え、必要な看護を導き実践できる。	1) 実際に行われている治療や援助を把握する。 (1) 障害された部位・治療の実際 障害された臓器の働き／対象の現在の状態／治療の目的／治療が選択された理由／薬物治療／食事療法／理学療法 (2) (1)の状況が生活に与えている影響 (3) 生活を整えるための援助の実際 食事・排泄・活動・整容・更衣・入浴など 2) 1)で得られた情報を元に、看護の方向性や具体策を明らかにする。 (1) 対象の情報や療養の経過を要約 (2) 介入したい事柄、患者の目標、具体策を明確にする。 (3) 自己の看護の振り返り 2) 対象の生活リズム・日課に合わせて行動計画を立案・実施する。 (1) 対象に実施している生活援助技術・バイタルサイン測定についての援助の必要性を明確にする。 (2) 観察の視点・方法・留意点を日々明確にする。 (3) 実施は原理・原則を踏まえ、対象の反応や結果の事実を把握する。 (4) 安全・安楽・自立の側面で日々振り返りながら実施する。 (5) 申し送りや日々得られた情報を、指導・助言を得ながら自己の看護活動のリフレクションの視点で追加・修正を行う。 3) コミュニケーションと観察から、以下の視点で対象の療養生活の情報を得る。 ・ ゴードンの機能的健康パターン 「栄養／代謝」「排泄」「活動／運動」	事前学習 学習ノート 行動報告書  中間サマリー と具体策  手順書
3. 看護過程の方法を活用し、その人の療養生活と看護について明確にできる。	1) 見学または実施した看護活動を、一定の書式に整理することで、健康障害のある対象を生活者として理解し、必要な看護を明確にする。 (1) 得られた情報について知識を活用して整理し、各クラスターのアセスメントの視点に基づいて説明をする。 (2) 各クラスターにおける看護の方向性を導き出す。	様式 中間サマリー と具体策 レポート⑤

<p>4. 実習を通し看護学生としての態度を養う。</p>	<p>1) 意欲的に取り組める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 目的意識を持って実習をする。</li> <li>(2) 毎日の学習目標を明らかにし実習に臨める。</li> <li>(3) 目的意識をもってカンファレンスに臨み、学びを深める。</li> <li>(4) 関心をもって患者に関わる。</li> <li>(5) 実習中に気付いた疑問や知識不足について追加学習する。</li> </ul> <p>2) 協調性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導者（スタッフ、教員）に報告・相談ができ、指導者の意見に耳を傾ける。</li> <li>(2) グループメンバーに対して協力している。</li> </ul> <p>3) 礼節をもった対応をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 身だしなみ・挨拶・言動・相手を思いやる気持ち</li> </ul> <p>4) 責任のある行動がとれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 相手の権利や尊厳を守る。</li> <li>(2) 安易に休まず、約束を守る。</li> <li>(3) 自己の関わりや援助に対し振り返りをしている。</li> </ul>	
-------------------------------	--	--



<p>4. 実習を通し看護学生としての態度を養う。</p>	<p>映する。</p> <p>2) 健康レベルと発達段階を考慮して、看護を実践する。</p> <p>(1) 急性期に応じた援助を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周手術期看護</li> <li>・ 手術前の対象への看護</li> <li>・ 手術後の対象への看護</li> </ul> <p>(2) 回復期に応じた援助を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手術後の対象への看護</li> <li>・ 退院に向け、術後経過をふまえた患者指導</li> </ul> <p>(3) 原理原則、計画に基づいて実践する。</p> <p>(4) 苦痛を与えず、目的達成につながる手技で実践する。</p> <p>(5) 実施時の対象の反応や異変に気づき、対応につながる行動をとる。</p> <p>3) 手術室における看護の実際を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手術中の看護</li> <li>・ 手術室における看護の展開</li> <li>・ 手術室の環境管理</li> </ul> <p>4) 2週間の自己の看護を振り返る。</p> <p>5) 自己の看護の振り返りから、よりよい看護を見出す。</p> <p>1) 意欲的に学習する。</p> <p>2) 協調性のある行動をとる。</p> <p>3) 礼節をもった対応をする。</p> <p>4) 責任のある行動をする。</p>	<p>手術室用行动計画</p> <p>援助計画 リフレクシ ョンシート</p>
-------------------------------	---	---

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期）	2単位	90時間
目的：成人期または老年期にある対象を理解し、慢性期・終末期の健康レベルに応じた看護を実践するための、基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学習内容	備考
1. 様々な発達段階にある慢性期・終末期の対象を理解する。	1) 対象の疾患について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病発症の原因・誘因</li> <li>・ 出現する症状のメカニズム・なりゆき</li> <li>・ 検査・治療などの影響</li> <li>・ 起こり得る合併症・二次的障害</li> <li>・ 全人的苦痛</li> </ul> 2) 発達段階が成人・老年期にある対象を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人・老年期の身体・心理・社会的機能</li> <li>・ 発達課題、家族・社会の役割、入院前の生活</li> <li>・ 生活習慣、環境因子、健康問題</li> <li>・ 健康観、対象の思い</li> <li>・ 加齢変化、認知機能、残存機能</li> <li>・ 家族介護力、社会資源</li> </ul> 3) 情報収集をする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 記録・医療スタッフ・対処とのコミュニケーション、看護師と共に看護活動に参加し援助を通して、情報収集する。</li> <li>(2) 知識に基づいて事前学習から導き出された必要な情報を意図的に収集する。</li> </ol> 4) 1)～3)で得られた情報をもとに看護の方向性や具体策を明らかにする <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象の情報や療養の経過を要約、介入したい事柄、患者の具体策</li> </ol>	学習ノート 事前学習 行動報告書 フローシート 検査項目一覧 様式
2. 看護実践場面を通して効果的なコミュニケーションを実践する。	1) 対象とコミュニケーションをとる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニケーション技術を使って対話する。</li> <li>(2) 必要な情報を得る。</li> <li>(3) 対象の心配事や感情に焦点を当てる。</li> <li>(4) インフォームドコンセントを実施する。</li> </ol> 2) 医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自己の考えを明確にし、相手に伝える。</li> <li>(2) 適宜、報告や相談をする。</li> <li>(3) 相手のメッセージを正しく受け取る。</li> <li>(4) 自己と相手の双方を尊重した自己表現をする。</li> </ol>	中間CF資料 援助計画  行動報告書
3. 慢性期・終末期にある対象の健康レベルに応じた看護を実践する	1) その日の目標に基づいた行動報告書を作成し、実践する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象を理解するために、何を明らかにしたいのか、なぜこの援助が必要なのかを明確にする。</li> <li>(2) 方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。</li> <li>(3) 対象の状態や申し送り内容から、計画の追加修正を行う。</li> <li>(4) 対象の反応や結果の事実を捉える。</li> <li>(5) (4)で観察したことを、適切な時間に知識を使い報告する。</li> <li>(6) 実施した援助を評価する。</li> </ol>	行動報告書 フローシート 援助計画

<p>4. 実習を通して看護学生としての態度を養う。</p>	<p>(7) 評価や振り返りを活かし、翌日の援助の必要性や計画に反映する。</p> <p>2) 健康レベルと発達段階を考慮して、看護を実践する。</p> <p>(1) 慢性期に応じた援助を実施する。</p> <p>(2) 終末期に応じた援助を実施する。</p> <p>(3) 原理原則、計画に基づいて実践する。</p> <p>(4) 苦痛を与えず、目的達成に繋がる手技で実践する。</p> <p>(5) 実施時の対処の反応や異変に気付き、対応に繋がる行動を取る。</p> <p>(6) 2週間の自己の看護を振り返る。</p> <p>1) 意欲的に学習する。</p> <p>2) 協調性のある行動をとる。</p> <p>3) 礼節をもった対応をする。</p> <p>4) 責任ある行動をとる。</p>	<p>援助計画</p>
--------------------------------	--	-------------



<p>4. 療養生活を支える社会保障制度の活用と看護の役割について理解する。</p> <p>5. 実習を通して看護学生としての態度を養う。</p>	<p>(6) 実施した援助を評価する。</p> <p>(7) 評価や振り返りを活かし、翌日の援助の必要性や計画に反映する。</p> <p>2) 対象の健康レベルに応じた看護を実践する。</p> <p>(1) 残存機能に応じた日常生活援助技術の実践</p> <p>(2) 二次障害の予防</p> <p>(3) 対象および家族への心理面への援助</p> <p>(4) 対象にあわせた患者指導</p> <p>3) 自己の看護活動の振り返りができる。</p> <p>1) 患者支援センターにおいて、保健・医療・福祉の連携の実際や退院支援（調整）に向けた関わりを見学する。</p> <p>2) 1) から退院支援に関わる各専門職と看護師の役割を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職の役割、活動の場、活動内容、多職種との協働</li> </ul> <p>3) 1) 2) の見学を通して、以下の内容について考察できる。「退院支援における多職種連携と看護師の役割」…④</p> <p>1) 意欲的に学習する。</p> <p>2) 協調性のある行動がとれる。</p> <p>3) 礼節をもった行動がとれる。</p> <p>4) 責任のある行動がとれる。</p>	<p>援助計画</p> <p>行動報告書</p> <p>レポート④</p>
---	--	---------------------------------------